

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和4年度農作物病害虫発生予察情報について

令和4年度農作物病害虫発生予報及び月報を発表したので送付します。

令和4年度農作物病害虫発生予報第1号

令和4年5月2日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 4月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、25株当たりの本田生息虫数が1.8頭と、平年(21.0%、0.9頭)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が4月28日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤を水面施用する。

(2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病葉率が0.0%、発病果率が0.0%)。

(2) 令和3年9月第3半旬及び10月第3半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。また、令和4年3月第3半旬の芽基部の調査でも、発病を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.8%、芽基部発病率が0.2%)。

(3) 高松地方気象台が4月28日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

赤星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月第6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が31.6%, 発病葉率が4.0%)。

(2) 高松地方気象台が4月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが, 5月上旬頃まで飛散する可能性があるため, 防除暦に準拠し, 防除に努める。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年より早い

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では, 8地点で越冬を確認した。越冬成虫は2.0頭/m²であり, 平年(2.4頭/m²)並の越冬密度で, 前年(成虫確認地点数が6地点, 越冬成虫数が0.8頭/m²)に比べてやや高い。

(2) 今春の予察灯調査においては, 勝浦町では平年(4月22日)より8日早い4月14日に, 上板町では平年(4月22日)より9日早い4月13日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。なお, 4月第1半旬～5半旬までの誘殺数は, 平年より多く推移している。

(3) 高松地方気象台が4月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ, キリ等)から成虫が飛来するので, 園内を巡回し, 飛来を認めたら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 4月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が22.2%と, 平年(9.2%)に比べて高いが, 発病株率は0.4%と, 平年(0.9%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が4月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 肥料切れすると発生が多くなるので, 適切な肥培管理に努める。

(2) 発生前または発生極初期から, 定期的に薬剤を散布して予防する。

(3) 罹病葉を圃場に放置すると伝染源となるので, 速やかに圃場外で処分し, 病原菌密度の低下に努める。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が66.7%, 被害度が2.3と, 平年(81.6%, 5.4)に比べてやや低い。

(2) 高松地方気象台が4月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が73.8%, 葉の被害度が3.4)。
- (2) 高松地方気象台が4月28日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。